

令和2年 12月 定例教育委員会会議録

令和2年12月14日（月）

山梨市教育委員会

令和2年12月 定例教育委員会 議事録

令和2年12月14日（月）午前10時から山梨市役所502会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議事
 - ① 不登校児童生徒の対策について
 - ② その他
- 4 閉会

○出席者

教育長	澤田 隆雄
教育長職務代理者	武井 茂
委員	林 正文
委員	佐野 千春
委員	矢野 眞由美

○欠席者

なし

○事務局職員出席者

学校教育課長	竹川 一郎
生涯学習課長	加々美 修
学校教育担当リーダー	宮本 貴光
学校教育担当指導主事	岩下 秀人

○議事録作成者

書記	上野 治美
----	-------

3 議事の内容

司会 竹川課長 議事の進行を教育長お願いします

教育長

議事にはいらさせていただきます。

① 不登校児童生徒の対策について、事務局から説明をお願いします。

岩下指導主事 資料1に基づき説明

・山梨市の11月末現在の状況についてですが、30日以上欠席している小学生は6人と前月+1人、中学生は47人と前月より+8となっております。15日以上29日以下欠席した小学生は3人と前月より-1、中学生は14人前月より-4人と中学校は多い状況となっております。具体的な取り組みとして、①点目中1で不登校数が多くなっていることを考え、「6年生児童状況調査」を実施し、中学校入学後不登校の心配がある6年生児童の情報交換会を該当小中学校間で行うこととしました。資料2枚目を各学校に依頼したものを資料としました。欠席日数にかかわらず、小学校の様子から不登校になりうる要因を調査するものです。小学校から学校教育課に報告後、関係課に内容確認し各学校の連絡会で報告します。今までも情報交換会を行っていましたが、今回は不登校に関する調査です。続いて、②点目として、中学校不登校生徒の支援シートの作成です。何らかの心理的、情緒的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある生徒について、不登校のきっかけや継続理由等についての的確な把握に努め、組織的・計画的な支援につなげるよう作成します。今までも不登校児童の調査を実施していましたが、それに関連したシートとしていきたいと思っております。中学校の生徒指導の先生と相談し作っていきたいと考えています。③点目になります。不登校児童生徒及びその保護者と管理職との面談の実施についてですが、これまでも行ってきた、担任や学年主任との面談だけでなく、管理職等の面談を実施し、児童生徒や保護者の意識の変容を図っていきたいと考えています。④点目です。SCやSSW、関係機関との連携及び市SCの配置ですが、教育相談体制をさらに充実させ、個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援を推進する。また、県配置のSCでは、対応件数や保護者への継続的なカウンセリングへの対応等が不十分なため、市SCの配置を進めたいと考えています。県配置のSCは、今年度から全校配置となっております。本市の岩手小学校の例として年間24時間配置となっております。1日4時間で、年間6日となり、継続的な支援ができていないため、市SCの配置を考えています。最後⑤点目になります。早期の教育支援センター・教育相談センターの設置です。不登校児童・生徒への社会的自立、学校復帰を目指した支援・指導のための教育支援センター、また、不安を抱える児童・生徒、保護者に対する相談窓口を一本化した教育相談センターの設置に向けて取組を進める。本市では、まだこのようなセンターの設置がありませんので各課と連携し取組を進めていきたいと考えています。以上です。

教育長

11月現在の山梨市の状況と具体的な取り組みについて説明がありました。何か質問があればお願いします。

林委員

・不登校Aの中学校47名について各学年ごと内訳は。

岩下指導主事

・2年生が少ないが1年は3年生とほぼ同じくらい的人数です。

武井委員

・完全不登校の子どもはどのくらいか。不登校の実態内容はどうなっているか、30日以上の中で実態がわからないか。

岩下指導主事

・今年度は9・10月から不登校数が増え始めています。

武井委員

・教室等には入れない児童・生徒がサポートルームやふれあい教室で過ごしている子どももいる。実際は出席となる。不登校の概念が不明確で、あまりにも不登校生徒が多い。その辺把握しているか。概念があいまいで実態がはっきりしない。毎年多いことは、なにか要因があると考え、分析し、取組の中で進めたらいいと思う。

教育長

・不登校児童生徒について、各学校で把握しているが、ふれあい教室や通級に行っていることなどを再確認するため支援シートを作成することとした。1、2年生について、それぞれ要因をデータ化し、問題があれば改善や対応を考えていく。中学1年生が急激に増えるため、先ほどの6年生状況調査を作成し、要因がある・ないか、また、中学校生活の中で要因があるか確認することを考えている。管理職を含め、学校、SSW等から保護者にアドバイスなど支援を今後考えている。

武井委員

・中学校でだが、学校が不登校生徒とどのくらいかわっているのか。小学校は担任と関わりがあるが、中学校では1教科の担任が学級担任になるからつながりがわかりにくい。学級担任との関係を教えてもらいたい。

岩下指導主事

・各学校で、学級担任が電話や家庭訪問し対応していると聞いています。1教科担当が担任でするので、小学校は1日関わりができるが、中学校は違うと感じています。

佐野委員

・中学校では、不登校や休みがちな生徒が登校した際は、担任や学年主任、副主任、部活の顧問など声掛けをしているようだ。思春期で関わりが難しい時期だと思うが、先生方が工夫した対応をしていると感じる。小学校で問題がなくても、中学校で急に不登校になってしまう子どももいるので、6年生児童の状況調査票はいいと思う。

林委員

・具体的な取組について、5つあるが、今までやっていないこともあるから、特に1番の取り組みはいい。これから継続的な取り組みは大変だと思うので、実施し確認しながら対応を変更していくほうがいい。

岩下指導主事

・今までも統一してのものはありませんでしたが、不登校児童生徒の問題だけではありませんが取組を学校で行ってきました。

武井委員

・先ほどの取組みの中で、学校長と面談することは家庭の実態がわかり、関係者との情報共

有もできると思う。学校での居場所づくりのため、サポートルームやふれあい教室を活用している。中学1年生の不登校気味な生徒だけではなく、様々な生徒に対しての関わりも難しいと思う。

矢野委員

・不登校の中には、中1でのギャップが大きいと聞いています。2月にはG I G Aスクール構想の対応で、リモートなど使用できることで、子どもの学校に対する考えが変わってくるかもしれません。また、各家庭のG I G Aの環境整備も早い対応をしていただきたいと思います。

教育長

・G I G Aの対応を今後考えていきたいと思います。また、S Cに中学校1年生全員と面談することを考えています。

林委員

・S Cと連携し、学年単位で対応するとういと思う。

加々美課長

・中学校では部活動について、甲府などは部活動の参加は全員ではなく、厳しい環境ではない。山梨市は全員入部しているので、厳しい環境があると思います。部活に行きたくない子供もいると思います。

矢野委員

・全員部活に入らなくてはいけないとなっていますが、それを変えていくことで変わっていくと思います。

教育長

・中学校では全員入部となっています。昔は県内全員入部となっていました。だがだんだん変わってきています。

林委員

・教職員も全員担当することが決まっていた。

矢野委員

・全員入部について変更はどこにいえばいいのでしょうか。

教育長

・教育委員会と市校長会で決めていくと思います。

・例えば、違うことをやりたい子どもがいる場合は、文化部の顧問に相談し対応もできる。

武井委員

・学力不振なのか、友人関係、部活動が原因か、様々な要因が考えられる。これからは、校長が面談して、要因がわかれば対応しやすくなると思う。さらに一歩取組ができればいいと思う。教員自身も部活動の担当をして、悩んでしまう人もいる。この時代だから部活動についての取組を変えていくこともいいと思う。

教育長

・教員も、部活動を担当すると多忙化になる。今後部活動について、クラブチーム所属等兼用も考えられる。外部指導者も一部頼んでいる学校もある。その他の要因として、学習面についても、小学校では順位が出なかったが、中学校では順位が出ることで、ショックを受け休んで

しまう子どももいる。

具体的な5つの取り組みを進め、支援シートについても次回の教育委員会で報告していきたいと思う。

その他

教育長

・事務局からお願いします。

竹川課長 資料に基づき説明

・市内小学校の女子児童が新型コロナウイルス感染症に感染いたしました。濃厚接触者として1回目の検査では陰性でしたが、発熱があり2回目の検査を行ったところ陽性となりました。保健所から濃厚接触者はいない、消毒も不要とのことでした。当該校では消毒を行い、休校措置はとりませんでした。

教育長

ありがとうございました。以上で議事を終了します。

議事終了